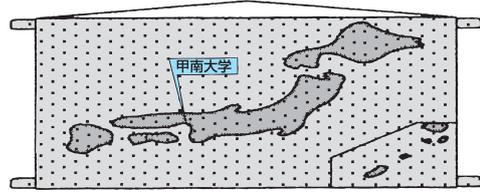


Zephyr

〈第62号〉

ゼフィール・にしかぜ



<http://www.kilc.konan-u.ac.jp>

《特集＊教員が語る「外国語学習者としての経験」》

★所長からのメッセージ：私の英語学習アドバイス	津田 信男	2
〔英語〕 夢を思い描いて <i>All our dreams come true, if we have the courage to pursue them. Walt Disney</i>	香林 綾子	3
〔ドイツ語〕 「使いながら学ぶ」外国語 ～言葉はコンテキストの中で生きている～	藤原三枝子	4
〔フランス語〕 フランス語の学習において「避けるべきこと」 ～フランス語学習者としての経験より～	中村 典子	5
〔中国語〕 学び続ける中国語——21世紀の新しい歴史を築くために	石井 康一	6
〔韓国語〕 書物の文字に目を通し、手で書いてこそ文章が書ける！	金 泰虎	7
〔日本語〕 日本語話者の日本語学習	谷守 正寛	8

甲南学園創設者

平生鈞三郎

「世界に通用する

紳士・淑女たれ」



「英語＋1（第2外国語）」
教育プログラム

「使える外国語教育」

国際言語文化センター機関紙（年3回刊行）

Your Teacher as a Language Learning Model

In my student days, I was especially inspired by teachers who used their real life experiences to make their classes more interesting. For example, I used to think math was boring, and I hated math class. However, that changed when I entered Mr. Murphy's math class. Why? Well, Mr. Murphy was not just a math teacher. He was also an airplane pilot, and had been a professional tennis player before becoming a teacher. So, in his class, we not only studied math from a textbook. We also studied how pilots use math to plan their flights and guide their planes to the correct destinations, and how some sports coaches use math to analyze and improve their players' technique. In other words, Mr. Murphy's experiences using math in his own life made his math classes more interesting and inspired us to study harder. To be honest, I never became good at math, but I began to enjoy it more.

In this *Zephyr*, several language teachers give hints about how to study language, based on their own learning experiences. These hints include such things as how to keep up your motivation and not give up, setting and accomplishing goals, using the power of your imagination, dreaming about your future as a good speaker, enjoying language study through music and movies, getting over katakana pronunciation, using new grammar and vocabulary words in your real life, going overseas and communicating with the local people, using context effectively, using hand writing to learn a language thoroughly, using foreign language study as a tool to understand your own language more deeply, and so on. That is quite a long list of hints, and there are more!

I hope you will enjoy the various articles in this edition of *Zephyr* and be inspired by the interesting language learning experiences of your teachers, and by the useful hints that they give you. If they could succeed, so can you!

(Stan Kirk)

私の英語学習アドバイス

国際言語文化センター所長 津田 信男

効果的な学習方法は人によって異なりますが、自分の経験から毎日コツコツと学習を継続することが英語能力を向上させるために不可欠だと感じています。そこで、皆さんがどのような学習をすれば良いか、以下の学習アドバイスを参考にして頂きたいと思います。

1. 文法・単語

文法・単語を勉強するより、リーディング（多読）をした方が良いでしょう。リーディングをすることで、自然な英語の表現を身につけることができます。自分の興味やレベルに合ったもの（英字新聞、雑誌、本）を選ぶと継続できます。例：ペンギンリーダーズ、速読（Timed Reading Plus）、DK Biography, Disney Publishing

2. 英英辞典の活用

英和・和英辞書を使っているといつも日本語で考える癖がつき、その結果、言いたいこと・表現したいことがなかなか英語で思いつかなくなります。英語だけでインプットする習慣を身につけると、とっさの時にでも自然な英語で表現できるようになります。

3. リスニング

生の英語を聞く習慣を身につけることが一番効果的です。例：DVD や TED Talks (TED.com) 無料カンファレンスの講演ビデオを英語字幕で視聴してください。甲南大学国際言語文化センター英語学習コンテンツ Active Communication in English Listening は様々なリスニングタスクがあり、スクリプトを見てリスニングしながら解答の確認ができます。VOA News <http://www.voanews.com/english/news/> アメリカのニュース番組ビデオマークのニュースはスクリプトも同時に読めるので、リスニング・リーディングに役に立ちます。Scientific American 60-second science は字幕を見ながらアカデミックな英語が聴けます。

<http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/>

4. ライティング

ライティング力を高めるには沢山の英語をインプットしないと自然な英語で書けません。リーディングやリスニングが基本です。特に自分の journal（日記）などを書くことをお勧めします。

5. PODCAST

iTunes Stores にある Podcast を利用すると良いでしょう。iPhone であれば無料でアプリをダウンロードできます。アメリカの iTunes Stores の Podcast の例：Audio Podcast: Fresh Air（インタビュー番組）60 Minutes（CBS News）Podcast には TOEFL や TOEIC 対策、BBC ニュースなどもあります。iTune U は、海外の大学の講義が聴けます。

6. 会話練習

2号館1階の Language Loft に行けばいつでも会話の練習ができますし、ネイティブの友人がいなくても気軽に話す機会があります。

私は自分の経験から英語学習を習慣化することが一番効果的な学習方法だと思います。例えば、電車の中で英語の本を読んだり、散歩しながら英語を聞いたり、家で英語のDVDを観たりすることで「英語学習の環境」を作ることができます。是非このような英語学習法を実践して英語力向上を目指してください。

夢を思い描いて

All our dreams come true, if we have the courage to pursue them. Walt Disney

国際言語文化センター英語特定任期教員 香 林 綾 子

「どんな夢でも求め続ける勇気があれば、必ず実現できる」これは、ウォルト・ディズニーの言葉です。彼は「夢を見ることができれば、それは実現できる」とも言っています。皆さんは、「あなりたい」とか「こうだったらいいのに」と思ったりすることがありますか。私は皆さんの思いが強ければ、その夢はきっと叶うと思います。これまで私の外国語（英語）学習が続いてきたのは、映画をみたり、本を読んだり、人に話を聞いたりして、外の世界に興味を持ち、いつかその世界と「つながりたい」とか、いずれ「つながる」と心のどこかで感じていたからだと思っています。

私は小さいころから映画が大好きで、特に洋画をよくみていました。高校生ぐらいになると、好きな映画は字幕を隠してもう一度みたり、映画を録音して通学中に聞いたりしていました。一度映像を見ているので、声を聞けば、その映像が甦ってきたり、次の台詞が頭の中に出てきたりして、そういう時に楽しさを感じたものです。映画をとおして外の世界や英語への関心も強くなったと思います。

大学生のとき、どうしてもロンドンに行きたくなりました。授業で、ロンドンの歴史を学んでいました。当時の先生は、ロンドンという都市がどのように誕生し、発展していったのかを詳しくお話してくださいました。歴史そのものというより、先生のロンドンの世界観に魅了されたのです。先生が見たロンドンはないかもしれないけれど、自分の目で見てみたいと思いました。行こうと決めた後、本格的に行く準備を始めました。語学学校を探し、ホームステイ先のホスト・マザーに手紙を送り、航空券をとり、本当に行くことになりました。移動の時間は長く大変でしたが、ホームステイ先まで向かうタクシーの中で、周りの風景を眺めていると、しんどさも忘れ、清しい気持ちになり、「夢が叶った」と運転手さんと会話したのを覚えています。

今年の夏は、第二次世界大戦が背景にある小説を読んでいたせいか、いつにもまして戦争について考えることが多くなりました。そんな中、何気に、ジョン・レノンのドキュメンタリーを見ていると、*Imagine* という歌が流れ、彼の思いが伝わってきたのです。「国なんてないことを想像してごらん。皆が平和に暮らしていることを想像してごらん」とジョンは会ったこともない皆に呼びかけます。歌が生まれた背景にはベトナム戦争がありました。平和を求めているジョン・レノンと彼のパートナーのオノ・ヨーコの思いが歌として現れたのです。二人の思いは、当時平和を願っていたアメリカにいる人々を動かしました。きっと二人は心のどこかで皆と「つながりたい」とか「つながる」と願っていたと思います。改めて想像する力や感じる心の大切さに気がつきました。

ベトナム戦争は終わりましたが、現在も、世界ではテロや内戦が絶えません。核兵器も製造されています。想像するだけでは何も解決しないと思う人もいるでしょう。そうかもしれません。しかし、皆さんには素晴らしい想像する力や感じる心があります。そして、可能性があります。夢を思い描き、夢の実現に向けて行動すれば、ジョンとヨーコの思いが皆に届いたように、皆さんの思いもきっと叶うと思います。

英語の教員をしていると、「英語が話せるようになりたい」という学生の声をよく聞きます。一方で、「どうせ、私なんか…」とか「英語は苦手だ」という声も聞きます。「でも」と思う気持ちは片隅に置き、まずは、英語を話している自分の姿を想像したり、自分の将来について考えたりしてみましょう。映画や本や人の話をとおして、世界観を広げ、いろいろ感じ、何が大切かを考え、夢の実現に向けて行動してみてください。

「使いながら学ぶ」外国語

～言葉はコンテキストの中で生きている～

国際言語文化センター教授 藤原 三枝子

私がドイツとドイツ語にはじめて接したのは、もう何十年も前、高校3年生の夏から秋でした。当時、ドイツ南部のミュンヘンに世界の若者が集まり、スポーツを通して交流を深めるというプロジェクトに、私の高校からも2名参加することになりました。このプログラムで3ヶ月ほど、ドイツを中心にその周りの国々に滞在しました。高校3年の後半といえば大学受験にとって大切な時期だったはずですが、迷わず参加の意思を伝えたように記憶しています。ミュンヘンに準備された施設に、世界中から何百人もの若者が集まり、様々なイベントが企画されました。



さすが音楽の国、ドイツの学生たちは夜になると宿泊施設内に作られたホールで、それぞれ得意な楽器を演奏していました。そこで知り合ったドイツ人学生と～メールなどもちろんない時代ですから～手紙のやり取りをするようになったのですが、使用言語は、はじめは共通の外国語の英語でした。そのうちに、「どうせならドイツ語で」と思い立ち、辞書を買ってきて、英語をドイツ語に訳して手紙を書いていたように思います。き

っととんでもない表現をしていたのですが、意思を伝えるために悪戦苦闘していた記憶があります。

大学での専攻は国文科でしたが、ドイツ語を学ぶために文法書を買ってきました。何度も繰り返して勉強しましたが、すぐに忘れてしまいます。そこで、辞書を片手に、当時興味をもっていたカフカの『変身』『審判』『断食芸人』などを読み漁りました。同じ単語を何度もひくので、辞書の厚さが倍にも膨れてしまいましたが、単語の意味や文構造がコンテキストの中で理解できるようになりました。カフカの作品はどれも日本語訳があります。分かりにくいところは、あれやこれや推測してから翻訳書で確認する方法をとっていたので、「あっそうか!」という気づきたくさんありました。こうして一冊を読み終えると、なんともいえない達成感を味わうことができました。

外国語は語彙や文法の「言語の知識」を習得してから使うのか、「使いながら」語彙や文法を身につけていくのか、ということがよく話題になります。私の場合にはどちらかと言えば、使いながら学んだように思います。コミュニケーションには、「読む・書く・聞く・話す」のスキルだけでは十分ではありません。その発言によって「何を意図しているのか」という発話意図を理解し、適切に反応する必要があります。Hast du eine Uhr? (時計もってる?) に対して、Ja, ich habe eine Uhr. (はい、持っています。) では、相手の意図を理解してはいない可能性があります。外国語教授法の歴史の中で、行動主義に基づくオーディオ・リングル法の限界はこ



こら辺にあったわけですが、「言語で行動する」ことを主眼とするコミュニカティブ・アプローチにも、新しい観点が盛り込まれるようになりました。文化によって意図していることが異なる場合があるという点です。これは私の苦い経験ですが、20代半ばに、当時神戸にあったドイツ総領事館に勤務することになり、その第一日目に、大麻所持で逮捕された若いドイツ人船員の取調べに通訳として立ち会うことになりました。やり取りが進む中で、警察の方の「世間様に対して申し訳ないと思わないのか?」という質問を、私はそのままドイツ語に訳してしまいました。彼の返事は、「大麻の所持によって逮捕され、船は自分をおいて日本を離れ、恋人ともしばらく会えない。自分にとって馬鹿なことをしたと思っているが、これは世間とは関係がない」というような内容でした。取調べ官は、「改悛の情がみられない」とコメントしていました。この若者は暫くして釈放されましたが、「世間様に対して申し訳ない」、これをどのように訳したらよかったですでしょうか…。神に対して? 両親に対して? 言葉はコンテキストの中にある、ということを感じさせられた最初の体験でした。

フランス語の学習において「避けるべきこと」

～フランス語学習者としての経験より～

国際言語文化センター教授 中村典子

私は、現在、甲南大学でフランス語の授業を担当していますが、皆さんと同じように、大学1年生のとき、フランス語の学習を開始しました。フランス語を学ぶ際、「これだけは絶対やめよう！」と決めて実行してきたことがあります。逆説的ですが、「避けるべきこと」を通して、フランス語学習の成功につながるヒントを説明します。

フランス語の発音を、カタカナで書かないこと！

これに尽きます！ カタカナを単語や文の下に書き、カタカナ発音をしていては、フランス語でのコミュニケーションは絶対に上達しません！ 私は、カタカナが入っている参考書等は極力使わないようにすると同時に、カタカナが目立つ箇所があれば、カタカナ部分を消しました。これこそが、フランス語が上達した秘訣だと自分では思っています。

フランス語の発音に関して、特にカタカナを排除する理由を説明しましょう。フランスという国は、フランス語で France と書きますが、カタカナで表現すると「フランス」としか書けません。しかし、実際のフランス語での発音は、発音記号で書くと [frãs] であり、母音（この場合は鼻母音）が1つしかない1音節の単語なのです。ところが、カタカナで「フランス」と書くと、4つの母音がある4音節の単語となってしまいます。日本語では、子音の後に、必ず母音がついてくるので、どうしても、こうした食い違いが起こります。また、フランス語では、常に、単語の**最後の母音**が一番強く発音されるため、[frãs] のうち [ã] という鼻母音が強く発音され、通常、[f] と [s] は弱い音として発音されます。また、フランス語の [r] の音は、カタカナの「ラ」とは全く異なるし、カタカナ表記では、[r] と [l] を区別できません。フランス語の発音をカタカナで書くのは、絶対にやめましょう！

フランス語は、発音の規則を理解すれば、英語よりも発音しやすいのですが、初心者の皆さんにとって「未知の単語」の発音は簡単ではありませんね。そこで、1年次・2年次で使う単語に関して、いつでも「ネイティブのわかりやすい発音」を聞き、発音練習できるように、教科書『Le français à la carte』に準拠した音声コンテンツを作成しました。

* * *

2015年9月中旬から、国際言語文化センターのポータルサイトに、約1200の単語・熟語等の発音をアップロードしてあります。録音者は、元フランス人留学生で、現在、フランス語の授業を担当しているエステル先生で、アップロードに関しては、情報システム室の鳥袋さんにお世話になりました。ポータルサイトの「**2015年度教科書**」の「français」のWebページを訪れ、4つの段の一番下の段をクリックしてください。すると、アルファベット順の単語リストへつながる右のようなWebページが現れます。**ダウンロードも可能**です。

Le français à la carte			
単語の発音			
単語の発音			
abc	def	ghi	jkl
mno	pqr	stu	vwx
yz			

<http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/sf/indexs2.htm>

スマートフォンでも利用可

* * *

私が大学1年生の頃は、インターネットもCDも存在せず、語学用カセットやシャンソンのLPレコードでしか、フランス語の音を聞くことができませんでした。皆さんは、スマホやPCを大いに活用して「聞く」「話す」力を向上させ、「基礎フランス語II」の授業で発言してください。もちろん、フランス語の文法を理解する必要がありますが、文法は「基礎フランス語I」の授業でゆっくりと学びます。質問がある場合は、学習相談アワー（水曜12:20 - 12:50）に6号館5階の652へ来てください。

学び続ける中国語——21世紀の新しい歴史を築くために



国際言語文化センター准教授 石井 康 一

●中国へ行けば、身の回りすべてが中国語の教材、私も中国語を学ぶ一人の外国人になります。教師も学び続けてこそ、人に教えることができるのだと感じています。10月の末に四川省の重慶に学会（老舎国際学術研究会）出張で行きました。経由地である上海は、1982年大学三年生の夏に短期留学した思い出の地です。「教科書問題」でアジアにおける日本のあり方が厳しく問われた時期で、日本人と見ると「君は歴史についてどう考えているのか？」と何度も尋ねられました。下手でも簡単でもいい、自分の考えを明確に相手に伝えることが必要でした。互いに共感できれば熱い握手を交わし、私の中国語は鍛えられました。インターネットももちろんなく、主食は配給制で配給切符がないと外食もしにくい時代でした。改革開放時代の急速な発展と変化の意味を知ることが、今の中国を理解する鍵だと思います。

○これはテレビで見た記憶ですが、1980年、日本の人気ロックバンドであるゴダイゴが中国で初めてライブを行なったときに、歌の一部を中国語で歌い、中国の観客と唱和する場面に感動しました。「Every child has a beautiful name, a beautiful name, a beautiful name,」の部分で「每个孩子都有一个漂亮的名字，漂亮的名字」と歌ったのです。この中国語のフレーズを通して私は名前というものへの尊さを知りました。「我叫石井康一。石头（石）的（の）石，王府井（の）的（の）井，健康的（の）康，一二三（の）的一」——分かりやすく漢字を説明することで名前を相手に伝え、相手の名前を認識し、大切にします。それが交流の出発点です。[付記] 今回 You Tube で 35 年ぶりにその映像に再会することができました。「ビューティフル・ネーム 中国語バージョン」で検索してみてください。

●上海の書店（上海书城）で日本旅行のガイドブックを購入しました（「日本攻略」2015 华夏出版社）。「爆買い」する人々の視点で日本を見てみましょう。

◎交通

在日本，铁路非常发达，从铁路事业的功能、火车旅行的舒适度来说，日本可以说是世界第一。这里的 JR 线、新干线和地铁将整个日本连成一个整体，既安全又快速，准时而且经济。不过对于个人来说，最舒适的还是乘出租车了。在日本，不论在都市里还是在郊区，到处都能叫到出租车。（略）在日本乘出租车价格比较昂贵，乘客只需按照计程表付费，无需付小费。

◎语言

在日本，日语为主要沟通语言，英语只有豪华观光酒店及大百货公司的服务人员才会使用。

将は口語表現の把と同じ用法です。非常に高い（昂贵）といいながらタクシーをすすめるあたり、やはり豊かなのでしょうか。英語はゴージャスなホテルや大きなデパートの係員しか使えませんかと言われてしまいましたね……

○チューターの留学生と学生の会話「Dà jǐ ?」「……わかりません」。漢字で書くと「大几?」、基礎中国語の教科書には載っていませんが、意味を想像してみてください——「二年级」でもいいですが、「大二」と答えましょう。日本語では小3・中2・高1というのに大1とは言いません。中国語では中学は初中、高校は高中なので初一・高三・大二。しかし小学校についてはこの言い方はしません。中国語と日本語の微妙な共通点と相違点——私を含めその場にいた皆にとって、面白い新発見でした。

●今の世界のあり方を根底から揺さぶるような出来事が続く中で、大学生はどうあるべきでしょうか。自国の言語でたくさんの本を読み、複数の外国語を学ぶことで自他の文化を知り、自分自身を鍛錬して下さい。一緒に中国語を学び続けていきましょう！



上海の地下鉄の駅のホームドアの標語、マナーを守って譲り合うよう呼び掛けている。让=譲

書物の文字に目を通し、手で書いてこそ文章が書ける！



国際言語文化センター教授 金 泰 虎

効果的言語学習法については、すでに話す・聞く・読む・書くという4技能の総合的観点に基づいて述べてきました（「韓国語の効果的学習を目指す学習者へ」『ゼフィール・にしかぜ』46号、甲南大学国際言語文化センター、2010年）。ここでは、言語学習に王道なしという観点に立って、コツコツ、大きな声を出して読む、聞く技能を強めるといった方法論を提示したことがあります。しかし、以下では「読む」「書く」の2技能を中心に述べて行きたいと思います。

最近、教育心理学の研究者から興味深い研究結果を聞きました。それは、勉強をしたり知識を得たりする際、従来の書物に目を通す人と、パソコン（Personal Computer）・スマートフォン（Smart Phone）・iPadの画面を通じて学ぶ人とは大きな差があるとのこと。すなわち、「従来のやり方の前者の人は書物を縦においた、つまり文章として、その内容を理解する。反面、デジタル（Digital）時代の到来とともに機械の画面操作から知識と情報を得る後者の人は、書物を横においた状態、いわば文章を絵のように取り込む」という興味深い結果です。

この理論に基づくと、パソコン・スマートフォン・iPadの画面に頼りがちな今の多くの学習者は、文字を絵のように「読む」ため、「書く」上で苦勞が伴うと思われます。実際、多くの方は手で書かないので書けないのを経験したことがあると思います。つまり、ワープロ（Word Processor）・パソコン・スマートフォン・iPadに文章を打ち込む人は、手書きをする人に比べて漢字を忘れてしまうケース（Case）が多いのは言うまでもありません。文章レベル（Level）の話ではありませんが、漢字が書けないため思わず平仮名で書くこともしばしばなのです。

そこで、結論的に言えば、外国語や母語のしっかりとした文章や文字を書こうとする人は、まず丹念に書物の文章に目を通し、そこから「読む」能力を鍛え、知識を得る必要があると思います。次にパソコンなどのデジタル機器を使うと、手で書く機会が少なく「書く」能力が著しく低下し、育たないため手で書く習慣を身につけるのが大事です。

特に、韓国語は「ハングル（한글）」という韓国固有の文字を使っているため、手で書いて手が覚えるようにしないと、多少は話せても書くことができません。つまり、パソコン・スマートフォン・iPadに打ち込むと、手で書けなくなります。このことは、アルファベット（Alphabet）を用いる西洋の言語であっても同じ傾向であると言えます。したがって、授業ではノート（Note）をとり、知っている内容でも繰り返し書いてみるのが重要ですが、これは初歩的な「書く」ことです。この「書く」という習慣が身につけば、自ずから語彙や語句、そして文章が覚えられて表現もでき、さらに水準のある文章が書けるようになります。

一般的に言語習得における4技能の終着点とも言える「書く」というのは、職業的に文章を書く人ですら難しいことです。つまり、外国語学習でも、母語の勉強においても、書物の文字を目で追いかけて理解する過程は、完璧な文章を書くのに欠かせません。これは高いレベル（Level）の「書く」能力なのです。

大まかに言って、レベルの高い文章は、因果関係、実証性、論理性が問われます。この文章というのも「書く」技能の初歩的段階から積み上げて行かないと完成することができません。段階を踏んでこそ、高いレベルの勉強や文章の作成、ひいては学問的に通用する文書作りにまで発展します。

要するに、書物の文章を通して「読む」知識を積み上げ、自分で考え、手で書いてこそ、立派な文章を「書く」ことができます。このことは、外国語の学習、母語の勉強にも当てはまることだと言えます。



日本語話者の日本語学習

国際言語文化センター准教授 谷 守 正 寛

母語である日本語は脳内の奥深く染み込んでいる自己同一にも関わるシステムなので、内省で奥深く追究できるという利点を活かして、言語の真相を覗き見したくなる興味に駆られます。だから母語話者であって日本語学習者でもありえます。稿者の場合、英語をコミュニケーションの手段としてよりも、日本語をより知るための道具として利用することが多く、これが意外と役に立ちます。そこで、英語を鏡とした日本語学習の簡単な例を挙げてみましょう。

日本語の世界で問題にされるものに「ようです」という言葉があります。くだけて言えば「みたいです」です。例えば、「うん？誰かおるみたいやな」といった具合に、母語話者ならどういふ条件でそこに「みたい」を使うのかは自覚せずに言えるでしょう。母語話者としての語学力があっても、母語で母語自体を知る「メタ言語能力」があるとは限りません。日本人というだけで日本語が教えられるわけではないのはそのためです。

外国人向けの日本語の教科書としては有名な『INTERMEDIATE JAPANESE』(The Japan Times)には、次のような例文があります(下線部は稿者、以下同様)。

「先生は毎日お忙しいようです。」Our teacher seems to be busy every day.

そこに文法説明はなく「seems」とあるだけです。しかし、次の用例も載っています。

「日本人は、熱いお風呂が好きらしい。」It seems that the Japanese people like hot baths.

「ようです」と「らしい」は違うはずなのに、どちらも seem と訳すとそれが分かりません。専門的説明はさておき、通常の辞典を紐解くと面白いことに気がつきます。

Looks like he's gone for the day. 今日はおもうお帰りになったようです。

Sounds like I was ripped off. ぼったくりにあつたようだ。

It tastes like Japanese amazake. 日本の甘酒のような味がします。

It feels like he is sitting right next to me. 彼がすぐ隣に座っているみたいです。

It smells like a gas leak. ガス漏れみたいね。(以上『英次郎 on the WEB』より)

ここでこの言葉のメカニズムが見事に垣間みることができます。日本語の「みたいです」が人間の五感(視覚、聴覚、味覚、触覚、臭覚)を司る五官による情報(光景、音、味、感触、臭い)を通して推し量る内容を表現する場合に表れるということが、英語においては5つの感覚動詞(look, smell, taste, sound, feel) + “like” に截然と分かれ、また形式的に異なっても日本語と英語とで同じプロセスを経て顕現する点では共通しているわけです。これで一気に日本語学習も深まりますし、逆に、英語話者に教えるとすぐさまこの日本語を理解します。

こんな現象が言語学習にはてんこ盛りです。言語を学ぶこうした経験から、日英語では対応形式が存在しなかったり異なったりするものの、深層部分では共通するものがあることに驚かされます。大雑把にチョムスキー的に言えば、言葉は経験のみを通してゼロから構築されるものではないということです。文法機能は他の生物機能と同様に先天的に組み込まれていることが実感できます。長年かかる自然習得とは違う短期間の外国語学習について経験的に思うことは、コミュニケーションをしたいのであれば、比較的短い表現の口慣らしが大事でしょうが、自分のオリジナルな考えをじっくり書き表したいのであれば、文法規則を正確かつ緻密に追究しつつ語彙を増やし、例文に倣って文構造をよく観察し、文字化された文を吟味・推敲しながら表出していくのが、結局は不可欠かと思えます。

今では、パソコンでワープロを開き、同時に国語・英和・和英・ネット辞書等を開いて、相互に比較しながら推敲することができます。辞書も日英語双方向検索が瞬時にできるので、効果的に外国語と対照しながら日本語学習を深めるのに大いに役立てられます。